

【歴史発見】

日本野球の起源 — これまでより5年も早く江戸時代にさかのぼる

幕末の英雄・坂木龍馬(1836-1867)が、書いたとされる手紙のなかに「日本野球の起源」について、常識をくつがえす記述が見つかった。

手紙は、テレビで人気のお宝番組レポーターから、たまたま街で声をかけられた主婦・森フミ子さん(68)宅の物置に保管されていた。

森さんによると、手紙は森さんの父親が30年ほど前に骨董市で手に入れたもの。家族は、価値があるか半信半疑で無造作にしまってあった。

新たに発見された今回の史料には、書かれた日付は記されていない。しかし、その内容から約150年前の江戸時代末期、西暦1867年の7月下旬に龍馬が薩摩の西郷あてに書いた手紙だと推測される。

龍馬は、自身の近況から書き始め、『某藩の勘定方 渡辺新作なるもの江戸詰家老 藤堂和泉守の悪事露見に尽力し功績多大なるにつき新政府にて大いに抜擢されん事お勧め申す』と明治維新後の具体的な人事構想にも言及している。

野球史の専門家が注目するのは『横浜のアメリカ商人よりバット二本
ボウル三個を買い受け候 聞けばベースボールは西洋武芸のひとつ』と
ある部分。これが事実なら現在の定説は、見直しが必要になるという。

手紙は『バットと申す太き棒にて小さき球を打つはちくと難しけれど
一度遠く打ち飛ばす時は魂を洗濯した如き心地して爽快なり』と続き、

さらに、『配下の竹内利八などは近頃めっきり上達しさかんにヒット
打ちおり 然らば今秋に竹内など差し向け貴殿らにベースボールご伝授
致したく その節お手合わせ願えば幸甚なり』とも述べている。

スポーツ文化博物館の学芸員・新見美和子さん(55)

『日本への野球伝来は、1872年と言われています。この手紙は日本
野球史上の大発見です。龍馬のスポーツ殿堂入りも確実でしょう。』

刀をバットにもちかえて、走りまわった江戸時代の武士たちは、本当
の「サムライ野球」を楽しみつつ、日本の夜明けを目指していたのかも
知れない。 (文責・吉沢)